

F-17 主婦の就労に関する研究—既婚婦人労働者と「働く婦人の家」について—
奈良女大家政 〇松本敏江 足田洋子 近藤公夫 北村君

目的 婦人労働者特に既婚婦人労働者の福祉を守り高める為の有効な手段を解明する研究の一環として、労働者が設置をすすめている「働く婦人の家」と既婚婦人労働者とのかかわりあいを把握し、そのあるべき方向を知ろうとする。

方法 雇用婦人労働者の内、既婚者の割合が多く、且つ「働く婦人の家」が設置されている神戸市長田区を中心に、その利用と就労についてアンケートおよび実態調査を行った。アンケートの回収数は300。調査期間は1971年12月～1972年3月である。

- 結果
- 1) 「働く婦人の家」が職場あるいは居住地と同地区にあるにもかかわらず、その存在を知っている者は半数であった。
 - 2) 利用していない理由としては「時間に余裕がない」、「遠いから」、「等が多いが、活動内容をよく知らない人も多い。
 - 3) 利用者の利用目的としては、「教養をたかめる為。」が最も多い。
 - 4) 「働く婦人の家」全体の利用者状況を見ると、婦人労働者よりも勤労者家庭の主婦の方が多く、また、婦人労働者の内では、未婚の者の方が既婚者よりも多い。
- 以上のことなどから、本来は働く婦人の福祉施設として設置されている「働く婦人の家」ではあるが、現段階では婦人労働者特に既婚婦人労働者にとっては、まだ遠い存在であり、その機能を充分に果たしているとは言いがたい。